

テーマ：観光（実践校）

オホーツク管内 網走市立東小学校

本実践のポイント（概要）

- ・自分と地域のつながりに関心を持ち、進んで地域社会に関わろうとする態度を育成するために、「身近にある地域の魅力を発信することで、地域の活性化に貢献する」という単元のゴールを設定し、既存の知識や新たに得た情報を駆使しながら粘り強く探究的に学習しました。

ふるさと教育・観光教育の実践内容

単元の目標

身近な地域の環境や施設、伝統文化等に係る課題を設定して、情報を収集し、まとめる活動を通して、地域の魅力を理解するとともに地域における自己の生き方との関わりについて考え、地域社会の課題解決に向けて自ら行動しようとするができる。

取組の様子

(1) 課題の設定

実生活と密接に関わり、興味・関心に応じた探究課題を設定することにより、一人一人が見通しと必要感をもって、学習活動に取り組むことができました。

(2) 情報の収集

「北海道観光入込客数調査」に関する資料から、網走市が抱える課題について情報収集しました。

また、シーニックバイウェイ北海道の Web ページや前年度の第5学年が作成したポスターを参考に、地域の魅力を発信するために自分たちができる具体的な方法として、自宅周辺の美しい景観の写真を1人1台端末を活用して撮影することにより集めました。

(3) 整理・分析

1人1台端末や電子黒板を活用し、収集した情報を整理するとともに、共同編集機能により内容について交流・協議し、地域の魅力が伝わるための効果的なポスターの構成や、相手に応じた伝え方の工夫、自分たちの生活との関わりについて理解を深めました。

(4) まとめ・表現

身に付けた知識や技能を活用して、一人一人がスライドを作成したり発表し合ったりすることで、網走市の魅力に対する関心を高め、地域の中で自分たちができることを実感し、地域社会の課題解決に向けて自ら行動しようとする姿が見られました。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

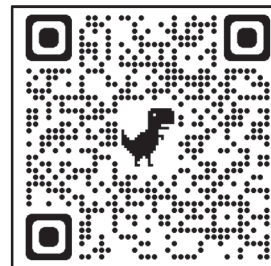
- ・一人一人が課題解決に向けて学習を進めることができるよう、実生活に密接に関わる課題を設定したり、解決の方向性を見通したりする場面を位置付けました。
- ・課題について理解を深めたり、新たな課題解決の視点を捉えたりできるよう、居住地域毎に設定したグループの児童同士で1人1台端末の共同編集機能を活用し、適宜交流・協議しました。



【1人1台端末を使った交流・協議】



【電子黒板を使った交流・協議】



【相手に応じた伝え方の工夫】
英語を使った説明

実践の振り返り

- ・児童自身が必要感をもって課題設定を行い、探究的に学習を進めたことにより、自分と地域のつながりに関心を持ち、進んで地域社会に関わろうとする態度を育むことができました。
- ・地域の魅力を発信する活動を通して、学校以外の人々との関わりを深めたり、他学年及び中学校との連携を図ったりすることにより、より一層発展的な探究活動になることが期待できます。